

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

<11>

防災に関する個人の役割と備え

【備えあれば、憂いなし】

防災に関する十分な「知識」を持ち、防災対策の必要性を「意識」しても、それを「実行」しなければ何の役にもたちません。「備えあれば」という言葉は、その知識・意識を実行に移すことであり、実行してはじめて安心できるのです。

【個人の役割】

防災対策は、自らの身は自ら守る(自助)が原則であり、個人の役割としては、それを認識し、そのための態勢作りをする(備えを実行すること)です。

【自ら行う備え】

①身の回りの危険度をチェック

まず、自分の身の回りでもどこが危険かをチェックし、危険な場合は、前もって直しておきましょう。特に、地震に遭う確率の最も高い自宅を安全な場所にすることが大切です。そのためには、住宅の耐震対策(耐震診断・改修、家具の転倒防止等)をしっかりとやりましょう。

また、自宅周辺や避難経路の安全も確認しておきましょう。

②家族みんなで話し合う

家族会議を開いて、各種災害の特徴や備え方、どのように行動したらよいか等について、よく話し合っておきましょう。特に、地震が発生したらパニックを起こすので、冷静な時にどのような状況になるかイメージし、訓練をしておきましょう。

また、避難場所や避難所、避難経路を確認しておくと共に、別々のところで災害に遭った時のために連絡方法なども話し合っておきましょう。

③災害に備えて準備しておく物
各家庭で、避難する時の非常持ち出し品や地域が孤立した時のための備蓄品を準備しておきましょう。

また、停電に備えて携帯ラジオや懐中電灯、初期消火に必要な消火器などを準備しておきましょう。

④地域活動や防災訓練に積極的に参加
日ごろから各種の地域活動に参加して、コミュニケーションを図っておくと共に、家族そろって、防災訓練に参加しましょう。

【次号のテーマ】

次号では、「まず、身の回りを安全に!」というテーマで、「自宅の耐震対策」についてお話しします。

自助

